

湘南日独協会 会報

Der Wind

(風)

湘南日独協会会報(Der Wind)

VOL. 15. NO. 5. 通巻90. 発行 2013. 9. 8

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局：〒251-0025 藤沢市鶴沼石上1-1-1

江ノ電第2ビル7F

TEL0466-26-3028 / FAX0466-27-5091

創立15周年記念ドイツ旅行報告会 並びに小岩井農場見学会計画



7月例会「ドイツ旅行報告会」が7月28日開催されました。織田会長より旅行全体の報告が行われ、その後2時間余の大石副会長制作のDVDが上映され、場所を変えての懇親会では参加者から旅の思い出が語られま



大石副会長

した。報告会へは東京からの参加者、樫村さん・村松さんも出席されました。金沢から参加された新保さんからは金沢銘菓が当日出席された湘南日独協会会員で今回の旅行をコーディネートされ添乗員としてお世話頂いた阿部仁氏託され届けられました。

小岩井農場見学会の参加募集

創立15周年記念行事として、湘南日独協会の創立にご尽力され、初代会長としてその礎を築かれた現名誉会長の岩崎英二郎先生のご縁深い小岩井農場見学会を開催します。併せて近隣の文化遺跡（宮沢賢治記念館や遠野五百羅漢等）も訪ねる予定です。

日程：2013年11月5日（火）～6日（水）

新幹線、バスを利用し、宿泊は雫石周辺を予定しています。

参加費用：約60,000円（1泊2食）

申込受付：2013年9月30日締め切り

お申込みお問い合わせ：事務局 吉田、三谷

電話番号 0466-26-3028

小岩井農場

1890年三菱の岩崎彌之助が日本鉄道会社の小野義真、鉄道庁の井上勝と設立した日本の民間農場では最大規模の農場

湘南日独協会の活動予定

■ Singen wir zusammen! 歌で楽しむドイツ語 第11回
Trinklieder + Rose Marie と題し、10月4日開催の湘南オクトーバーフェストに因んだ歌を中心にこれまで歌ってきた歌を復習しましょう

日時 9月22日（日）15:00～16:30

会場 江ノ電第2ビル4F 湘南アカデミア

会費 1,000円

申込み、問合せ：木原

TEL:0466-28-9150 E-

mail:jdgs@jcom.home.ne

■ 湘南オクトーバーフェスト

恒例のビール祭りです！今年も楽しみましょう！

日時 10月4日（金）18:30～

会場 グランドホテル湘南

まだ、お申込みされていない方は急ぎお願いします

■ Singen wir zusammen 歌で楽しむドイツ語 第12回

Jaegerlieder (狩りの歌) を予定しています

日時 10月13日（日）15:00～16:30

会場 会費等は上記の9月をご参照ください

■ 第89回例会 講演会

「ホルツフィグアー小さな木の人形」について（仮題）

講師 飼沼聖子氏（ホルツフィグア作家）

日時 10月27日（日）15:00～16:30

会場 藤沢市民会館 2F 教養室

注：会場が何時もの湘南アカデミアではありませんのでご注意ください

会費 1,000円

なお、講演終了後懇親会を開催します（会費別料金）

■ 第90回例会 講演会

「ライン・ロマン主義とローレライ」

講師 森涼子氏 大学講師（ドイツ文化史研究）

日時 11月24日（日）15:00～16:30

会場 江ノ電第二ビル7F 湘南アカデミア

会費 1,000円

新入会員

敬称略

宇多 綾子

6月例会

講師寺田雄介氏「文化都市ベルリンの魅力」に
出席して

小田武司氏

会員 小田 武司

ベルリンという都市の名前は私たちにとって非常に身近に感じますが、その実態については多くの日本人にとって、多くを知っているとはあまり言えないのではないのでしょうか。

寺田理事の講演では、そのような私たちが知っているようで実は良く知らないベルリンを、非常に丁寧に紹介していただきました。その中でも大きなポイントとなったのは、新しいヨーロッパの文化のセンターとして成長しようとしている現在のベルリンの姿ではないのでしょうか。

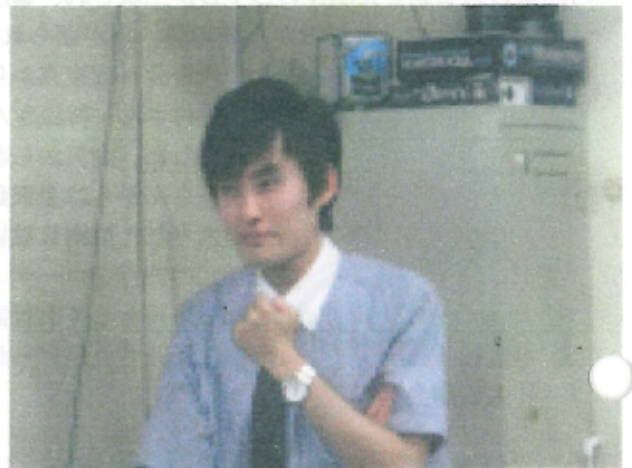
1989年にベルリンの壁が崩壊して14年近くが立ちました。それまでのベルリンは遠くにあつてあまりよく見えない町だったと思います。東ベルリンと西ベルリンの間を隔てていた厚い壁は、言うまでもなく東西ベルリンの人々の自由な往来を完全に遮断していましたが、そのような状況下でなお、ものすごい数の東側の人達が命を危険にさらしながらも敢えて西側に脱出しようとした記録は、現在街の一角でしかなくなったチェックポイントチャーリーにある博物館でも見ることができますが、それらの人々の心は私たちの想像をはるかに超越したものだっただろうと思います。

そのチェックポイントチャーリーにも当時百メートル以上もある幅の検問所がありました。数百台のトラックがこの検問所を通過するために、この空間に待機していたもののようです。そのチェックポイントチャーリーも、今はその面影をまったく残すことなく、すっかり変貌をとげて「普通」の街角に変わっています。わずか14年でここまで完全に変貌をとげていることが、忌むべき過去を何としても一刻も早く拭き消し去りたい、ベルリンの人達の気持ちを表しているのではないのでしょうか。

一方で、ドイツでは第二次世界大戦が終結した翌日から、戦火にまみえた教会などの歴史的建造物を、再建し始めたという話を聞いた事があります。瓦礫と化した石をかき集め、使える物は正確に元の位置に据えて、そして足りないところには新たに工面した石をあてがって、その建物を復元しようとした人達の心、それは今の私たちには容易に理解できるものではないように思います。ドイツでの戦災は、我が国のそれとおおよそ似たような状況だったと言われています。特に都市部での戦禍は強烈で、食べる物すらほとんどなく、自分たち自らの生活がまったくなりつていない状況の中で、このような再建の動きがあちこちにあったことは、人々の心を理解する上で極めて重要であると思います。

音楽が好きな私にとっては、ベルリンフィルが若いころからずっと憧れの存在でした。今年5月についてその夢が実現し、ベルリンフィルを聴きに行くことが出来ました。そのコンサートホールは、外から見ると形も外壁の色も、正直あまり印象に残るような建物ではありません。しかし、ホールの構造と音響効果は、これはまたものすごく素晴らしいものでした。ステージと客席の隔たりが殆ど感じられず、たまたま私は最前列の中央左側に座っていたのですが、ホールのセンターで聴くのと変わらない、極めてバランスのとれた素晴らしい音に包まれました。オーケストラの指揮者も演奏者も国際色豊かで、指揮者はスウェーデン人のプロムステッド氏で、演奏者には特に若手の方が多かったように思います。ベルリンが国際都市として発展しているという強い印象を受けました。

ベルリンの再開発は、まだその途上にあるように思います。一方で歴史的文化をしっかりと保ちながら、新しい文化を取り入れ、そしてまた創造して、堅実な足取りで一步一步文化都市としてヨーロッパの中心的存在に発展していこうとしているように思います。



講師 寺田雄介氏



講演会場

私とドイツ (7)

—童話集『ふしぎなオルガン』ゆかりのハレ訪問—
会員 中村 茂子



中央が中村茂子氏

レアンダーの童話集『ふしぎなオルガン』は、私の幼い頃からの愛読書だ。グリムやアンデルセンなど童話好きだったが、なかでもレアンダーの物語性と抒情、ユーモアに心惹かれ、大人になってからも読み返してきた。愛蔵の国松孝二訳『ふしぎなオルガン』全22編は1952年岩波少年文庫刊行だが、2010年には新版に引き継がれている。

作者レアンダーは、本名リヒャルト・フォン・フォルクマンというドイツ人外科医である。1870~71年の普仏戦争に軍医監として従軍しバリ包囲戦のさなか、祖国ドイツ、ハレのわが家にいる子どもたちに軍事郵便に託して書き送ったのがこれらの童話であった。

日本では「ふしぎなオルガン」や「まほうの指輪」などの童話は読まれているが、作者フォルクマン＝レアンダーについては殆ど知られていない。私は慶應通信教育大学卒論テーマにレアンダーを選び、指導教官の斎藤太郎教授（宮啓三先生の教え子です）が探してくださったハレ在住作家シモーネ・トリーダーSimone Triederの書いた伝記"Richard von Volkmann-Leander, Chirurg und Literat"を読むことにした。ドイツ語は全くできなかったが、この本がドイツ語学習の契機となった。最初は独学、そして湘南日独協会のドイツ語講座に参加した。約2年半前のことである。独りで読み進んだ伝記は大変興味深い内容だった。読後、著者のウェブサイト感想メールを書いた。ドイツ語での手紙に自信がなかったが、当時の講師小笠原藤子先生のご助言に従い、全部を英語にせず半分ほど四苦八苦してドイツ語で書いたところ、思いがけずトリーダーさんから返信があった。そしてこの度の夫とのドイツ旅行計画に、急きょ対面が実現した。トリーダーさんからの「会いましょう」には、習いたての接続法Ⅱ式Wie waere esを使い、ハレ駅10時を約束。中川純子先生の、見えそうな文章は書きだして口に出して覚える、を機中で実践する。

7月21日。まだ会話は不得意であるが、幸いなことに トリーダーさんの友人でハレ在住の日本人・高瀬まこさんが通訳に同行してくださった。

挨拶のあと、何がしたいかとお尋ねに、私は本で読んで印象深かった記念像、旧宅ヴィラ、ハレ大学など、思いつくままをあげた。トリーダーさんは、それらすべてを彼女の日本車で回ってくださった。ハレは10年ぶりの猛暑で、トリーダーさんのご好意はひとしおありがたかった。

まずハレ大学病院前の記念像に向かう。フォルクマンが1889年59歳で死去すると記念碑建造の声があがった。1894年に除幕式をした石像は、風雨に曝され傷んだが2006年に修復された。ついでヴィラと呼ばれる旧宅。1868年にイタリア風を意識して造った。ヴィラに住む以前の住居に残っていた。壁面にはそこに住んだ歴代の著名人の名前があり、一番下にフォルクマンの名。最後に墓参りをした。

ハレはザーレ川に面した町である。6月にはザーレ川が氾濫しトリーダーさんが日ごろ仕事に通っていた出版社も水に浸かった、とその時の写真を見せてくださった。日曜ということもあり、学生のいない大学町は静かだった。もう一人の有名人ヘンデルの像にトリーダーさんは「ハレで生まれただけ」と笑った。ヘンデルはイギリスで活躍したからだ。幼い頃から好きだったレアンダー童話、その作者の生きた町でゆかりの場所を訪ねることができた今夏の旅。私はまたもや四苦八苦してドイツ語でお礼の手紙を書いた。

湘南日独協会

ドイツ語講座ご案内

(秋冬期講座：10月～3月)

- クラス：① [初級] 土曜日 11:15～12:45
② [中級・会話] 土曜日 9:30～11:00
③ [中級・講読] 土曜日 10:00～11:30

講師：①、②は中川純子、Arndt-Olaf Friess。③は松野義明。

会場： 藤沢カトリック教会

受講料：43,000円(20回)。湘南日独協会会員には割引特典があります。

[申込・お問い合わせ先]

TEL/FAX：0467-32-7300

e-mail: matsunoy@kamakuranet.ne.jp

ワイマール特集

湘南日独協会は、ワイマール独日協会と1999年5月16日ワイマールにおいて姉妹協会としての提携調印を致しました。その後交流を深めて来ました。



左の赤い丸に白抜きの銀杏の葉がデザインされたワイマール独日協会のロゴマークです。今回のワイマールへの訪問に際し、湘南日独協会創立15周年祝賀会が開催され、晩餐会のメニューには下の写真の様に、鎌倉の市章（笹竜胆）（湘南日独協会には未だロゴが制定されていない）と共に印刷されていました。



晩餐会のメニュー

2006年2月にはワイマールからゲルマー市長と128名の市民が来訪、鎌倉市の中央公園に菩提樹が植樹されました。前号7月発行のDer Windでお知らせしましたが今回の訪問に当たり菩提樹の成長ぶりをお知らせすべく写真をお持ちしました。

植樹に参加された方々は大変感銘を受けられたようです。両協会のその後の交流の深まりも同様、将来には大木となる事でしょう。

来年2014年にはワイマールからヴォルフ市長はじめ独日協会のメンバーが来日の計画を立てているようです。皆さんを迎える準備も始める必要があります。会員皆様のご参加をお願いしたいと思います。

* * * * *

ワイマール市の概要

連邦州	チューリンゲン州
緯度経度	北緯50度59分 東経11度19分
標高	海拔208.6 m
面積	84.26km
人口	63,236人 (2012.12.31日現在)



上の写真は中根駐ドイツ大使を中央に向かって左よりワイマール独日協会会長パウハウス氏、ワイマール市長ヴォルフ氏、織田会長、いわき日独協会鎌田会長ワイマール市長を市庁舎に訪ねた際の記念記帳下の写真は市長の歓迎を受けた旅行団



ワイマールはここにあります



* * * * *

公式ウェブサイト

ワイマール独日協会 www.djg-weimar.de

ワイマール市 www.weimar.de

独日協会のサイトには今回の祝賀会などが載っています

ワイマールと鎌倉市の青少年交流のその後

2011年は日独友好150周年記念の年でありました。ワイマールと鎌倉市の姉妹都市も10周年を迎え、鎌倉市の青少年がワイマールを訪問しました。この訪問は湘南日独協会とワイマール独日協会が協力し実現したものです。

8月21日より26日のホームステイは鎌倉市の文化推進課（当時）青山課長が引率し、湘南日独協会からは織田会長と竹内三津子さんが同行お世話をされました。

今回の湘南日独協会のワイマール訪問に際し、ホームステイに参加されて二人から次のメッセージを預かりワイマール独日協会へ届けました。なお独訳も併せてお届けしましたが原文のみを掲載致します。

* * * * *

ワイマールの皆様へ

古池美慧

日本は新緑がまぶしい季節となりました。私達がワイマールを訪れてから早いものでもうすぐ2年が経とうとしています。皆様いかがお過ごしでしょうか？

私はワイマールで過ごした7日間を今でもよく思い出することがあります。例えば、ワイマールの町をたくさん観光したり、ホストファミリーとオペラを観に行ったり、インターナショナルスクールで同年代のお友達と異文化交流をしたりしたことが私の最高の思い出です。思い出す度に懐かしく、また恋しい気持ちになります。このように、充実した日々を送らせていただけたのも市長様はじめ、私たちのためにサポートして下さったワイマールの皆様のおかげだと思っています。

10代のこの時期にワイマールの訪問を通して、自分の国を見つめ直す良い機会となり、私自身の視野を広げてくれる良い経験となりました。これをこれからの将来に生かしていきたいと思います。

今度は是非、鎌倉に来て下さい。

皆様のご活躍を日本からお祈り申し上げます。

市長さん、独日協会の方々へ

倉掛いよな

一昨年の夏は大変お世話になりました。音楽学校で生の演奏を見せていただいたり、日本のものとは全く雰囲気の違いのある図書館を見学させていただいたり、同世代の方々とおりがみを一緒に折るなどの交流の時間をもうけていただいたことで、一個人では体験することのできない素敵な時間を過ごすことができました。何よりホームステイ先のご夫婦はとても優しく接して下さい、ご夫婦とドイツ語でお話できたことが一番の思い出です。また、実際にドイツ人の方のお宅に泊らせていただいたことでドイツの暮らしというものを体験することができました。

ワイマールのよいところをたくさん知ること、鎌倉のよいところを探すようになり、ワイマールのことはもちろん、以前よりも鎌倉のことも好きになりました。今回の経験を通じてワイマールのことをもっと知りたいと思うようになりました。来年にはドイツの大学に一年間留学するつもりです。留学に向けて今年からヨーロッパの政治を研究するゼミに参加しています。私はこのゼミでドイツの政治を研究するつもりです。以前よりも法・政治への興味が高まり研究の意欲が高まったのもワイマール訪問があったからこそです。貴重な経験をさせていただいたことにあらためて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。ぜひ鎌倉にもいらしてください。

ドイツに行こう！

ワーキングホリデー・プログラムは、日本の若者に観光旅行ではなかなか経験できないドイツの日々の暮らしに触れる機会を提供、思いのまま旅行を楽しみながら、自由に仕事を見つけ、旅行費用を現地で自ら賄うことが出来ます。

- 日本国籍を持つ18才から30才までの方
- ドイツに滞在出来るのは最長1年
- 職種の制限はありません
- 観光客としてヨーロッパの他の国も旅行できます

詳細はドイツ大使館法務領事部

電話 03-5791-7700 fax 03-5791-7702

E-Mail info@tokyo.diplo.de

ドイツ大使館の下記サイトご参照下さい

www.japan.diplo.de

ドイツ大使賞 絵画コンテスト

2013 「わたしのドイツ」募集

- 昨年の望年会で参加の方へは差し上げましたドイツ大使館のカレンダーは昨年の募集作品から選ばれた絵画で構成されています。
- 鎌倉、藤沢の子どもたちの応募を働き掛けるべく両市を通じて募集チラシを配布致しました。

湘南日独協会創立15周年記念

特別寄稿

湘南日独協会創立以来15年になるということについて

会員 古橋昭子

“え〜もう15年!”という時の速さに驚く反面“まだ15年”だったのかという想いもある。こうした特定の目的や意味をもたない会としては、驚く程内容が濃密な会であることによるものと思われる。私も“おもちゃの話”をさせていただいた。その時々で色々な方から興味ある話を伺い、その後のコーヒープレイクは楽しいものであった。

1998年発足から2年半、2000年の4月からドイツ語講座が始まり、講師としてSeinsch先生をお招きできたのは大変なことだった。Seinsch先生は東京の日独協会でのドイツ語講座を御担当して居られ既によく知っていたので喜んで私も受講させていただくことになり、どういう訳かドイツ語講座の仕事は私のものになって終い、名簿、スケジュール、テキストの購入などもすべて引受け出欠表を松野さんに最終回にお渡しするとすごく立派な終了証書を作って下さり驚いてしまった。その後、講師の方々は変わって終いましたが講座はうまく進んでいる様でうれしく、途中でお世話をできなくなった事を心苦しく残念に思っている。

ドイツ語が始まって間もなく、現在の“アムゼル”となった合唱の会が、ドイツ語と同じく藤沢カトリック教会を借りて始まったが、今ではプロ級に上達なされたことは大変によろこばしいことである。



リヒターさんの料理教室(10周年のあゆみより)

私が元気だった頃、リヒターさんの御指導で同じカトリック教会内のキッチンをお借りしてドイツ料理講習を2回楽しく行ったが、こちらの世話人はドイツ語会話より少々面倒であった。その後リヒターさんがオーストラリアに移住なさったせいもありそれっきりとなって終わった。次第に古い人から新しい人へと会も変化してゆくことであろうが今の様に品の良い会が続いてゆくことを望んで止みません。会報Der Windを出すとき一番始めdie Windと書かれて居り、色々な風が吹くものと思ったが東西南北色々吹いてもこれはDer Windでなければならない。Der Windにはもう一つ別な意味もあるが、私達の会報は勿論“屁”ではなく、かぐわしい風であることは間違いない。

本協会の末長い発展を心から願っている。

東部ドイツ旅行記

会員 西山忠生

ドレスデンまでの旅行に関しては既にこれまで報告がされておりますので、その後に報告させていただきま

す。
4日目、ドレスデンを8時半に出発、ケーニッヒシュタインの上の方、標高361メートルの所には13世紀に築かれた要塞が残っており、順路から広がる眺望は圧巻であった。敷地内には観光施設としての博物館も完成し、歴史を物語る多くの展示品で埋まっていた。

その後、クーアオルトラテンに移動し砂岩の層が長年の雨水の浸食作用と風化により奇岩の断崖絶壁な地形が出来上がったと云うザクセンスイスをハイキングで登り、下を流れるエルベ川より約200メートルの高さにある1851年建造のバスタイ橋側の展望台からも周囲の奇岩を眺めた後近くのレストランで昼食をとる。



エルベ河に聳えるケーニッヒシュタイン

その後、600年前貴族の狩猟用の館として建造されたビルニッツ宮殿へ。17世紀末ニアウグスト強王の所有となり、愛人ゴーズル伯夫人にプレゼントしたと云う。ここではまず240年前に日本からプレゼントされた樺の木を先ず拝見する。木の脇には冬場に温室として使用されるラス製の建造物もおかれていた。城内にはアウグスト強王が息子の為に作ったと言われるゴンドラも展示されていた。ビルニッツ宮殿の裏手からは、エルベ渓谷でリパークルーズを運航しているザクセン蒸気船でドレスデン迄、蒸気エンジンの音や外輪による波しぶきの音、更に汽笛の響きを聞きながらこの約1時間の船旅を楽しみドレスデンに無事到着。

ドレスデンでは戦時中破壊されドイツ国民の浄財により再建されたフラウエン教会が6時半までなら最上階まで登れますよとの勧誘で有志8名位で登りドレスデンの街並みをながめる。夜8時よりホテルの近くのレストランで交流会が行われ夕食を楽しむ。小さな魔除けの人形をお土産に戴く。

5日目、先ずヨーロッパで始めて磁気を産み出したマイセンでは朝一番に磁気博物館を訪問、原料を轆轤で成形するところから始まり、絵付けの段階を経て最終製品になるまでを其の順序に従って、解説出来るようになっている部屋を順番に見て回った後は、2階の展示室や1階の売店展

示の作品を拝見する。前回、来た時は2階に置いてある磁器製パイプを使用したパイプオルガンの特別演奏を聞かせて頂いた事を思い出す。

マイセンから110kmドライブしてリュベナウに到着、レストランではコト布斯独日協会のDr. Prof. Wusch氏ご夫妻と勝亦氏の旧友Hesse氏に迎えられて昼食を共にする。昼食後は民族衣装を着こんだ可愛い姉妹とそこそ家族の出迎えを受け、森の中を縦横に流れるシュプレイ川を2艘の平船での遊覧を楽しむ。船上では雨の中傘の花が咲き、行きかう際にお互いに写真を取り合っていたようだ。船の中では1本1、5ユーロのリキュールを販売していたので購入して飲む。



ビルニッツ宮殿庭園にて向かって左が西山氏

その後は98km離れたベルリンに向かい、途中ブリッツではドイツの建築家ブルーノ・タウトが設計した世界遺産『ブリッツ馬蹄形集合住宅地(ジードルンク)』の見学をするが、雨脚が強くなった所で多くの方はバスを降りて近くを覗いたようだったが、流石建築家を目指す櫻村さんと会長、私の3人は折角のチャンスと思い主だった所を見学する。

ブルーノ・タウトは1932年から1933年までソ連で活動するが、建築界の硬直性に直面し、ドイツに帰国。その直前にドイツではナチスが政権を掌握。親ソ連派と言う烙印を押されてタウトは職と地位を奪われ、ドイツに戻って僅かに二週間後に祖国ドイツに家族を残し、スイスに移動後シベリア鉄道でウラジオストックに到達し、海路日本を訪れ其のまま亡命した。ブルーノ・タウトは桂離宮と日光東照宮を対比させた上で、桂離宮を取り上げ、数寄屋造りの中にモダニズム建築に通じる近代性がある事を評価し、世界に紹介したのである。滞日中生活をされた高崎市のお寺「少林山達磨寺」にはブルーノ・タウトが暮らした住居「洗心亭」が保存されているが、それを見学した時の事を思い出す。

ベルリン到着後夕食はソニーセンタービルのピアホールで済ませ着替えをしてコンサート会場の『フィルハーモニー』へ向かう。ここでもベルリン独日協会の方のお世話で良い席の前売り券をお世話頂き、86歳になるヘルベルト・ブロムシュテットの指揮でベートーベン交響曲 第4番とカールニルソン交響曲第5番の名演奏を堪能した。

ホテルに帰ると喉を潤したい人が何人かいた上、テレビ画面ではサッカーヨーロッパ選手権でドイツチーム同士の争いとなり、ミュンヘンとドルトムントの対戦となり2:1でミュンヘンの優勝を見届けて部屋に戻る。



ブルーノタウトの集合住宅地の顕彰碑

翌6日目は、まず1961年夏東ドイツによる壁が出来てから28年間通行不可能となったドイツ再統一の象徴であるブランデンブルグ門で下車、小雨降る中全員で記念写真を撮影、更に車中からは金色に輝く「戦勝記念塔」を眺めたりして、ポツダムに向かう。途中オンケルトムヒュッテでブルーノ・タウトの設計になる住宅地と顕彰記念碑の後、プロイセン王フリードリッヒ一世、大王と呼ばれたフリードリッヒ二世が栄耀栄華を極めた居城サンサーシー宮殿と立派な庭園を散策。更にホーエンツォーレルン家の王城の中でも最後の建造物となったツェツィーリエンホフ宮殿を訪れる。この宮殿は戦争終結に導いた三国巨頭によるポツダム会談が1945年の夏に使用されたことから、世界中の注目を浴びた知名度の高い場所の一つとなる。



ブランデンブルグ門の前で

(感想)

今回の旅行では参加者が24名で行動するにも、訪問場所の説明を聞くのも、また、大型バスでの移動もゆっくりと休み、スケジュール的にははっきり言って可なりきついものがあつたが、5か所の独日協会との食事会、ドレスデンでのオペラ鑑賞、ベルリンでのクラシック音楽会、蒸気船によるリパークルージング、SL列車での汽車旅、リュウゲン島での遊覧船、それにドイツの代表的世界遺産訪問、バラエティーに富む場所の数々を見学等、10日間を充分楽しませていただきました。この旅行の準備、計画、参加者のお世話などにご尽力頂きました、織田会長、東日観光の阿部さん及び現地でのガイド役を務めて下さいましたゆかりさんに改めて厚く御礼申し上げます。

シンポジウムとセミナーの案内

『サステナブル社会の建築とまちづくり』
—環境先進国ドイツとEUの実態に学ぶ—

セミナー「ユーロ圏のチャンスとチャレンジ」

20世紀の近代化過程におけるドイツと日本の住生活の
場づくりの変遷と系譜を整理し、その中で構築されてきた
現代の建築・都市のあり方を新たなサステナブル社会
(持続可能社会)との関わりでどのように考えるべきかを
探る。ハイクオリティな住環境づくりに向けての国内外
の取り組みの差を比較検討し、これからの時代に相応し
いまちづくりの在り方について考える。

主 催 : NPO 法人文化日独コミュニティ (JGCC)

日 時 : 2013年10月31日(木) 18:00~20:30

※シンポジウム終了後、懇親会を予定しております。

会 場 : ドイツ文化会館 1階 OAGホール
(〒107-0052 東京都港区赤坂7-5-56)

会 費 : 入場料:1,000円(資料代込)・

懇親会:1,000円(会費は、当日現金払い)

1. 基調講演「サステナブル社会の建築・都市のあり方、造り方」—60年代末からの日独社会での体験から—
澤田誠二氏 (一般社団) 団地再生支援協会副会長 元明治大学教授 [建築社会システム]
2. パネルディスカッション「サステナブルな住環境を実現するために」

織田湘南日独協会会長がパネリストとして出席されます

【お問合せ・お申込先】

NPO 法人文化日独コミュニティ (JGCC) 事務局

FAX : 03-5634-6433

E-mail : kashimura@jgcc.or.jp

URL : http://www.jgcc.or.jp

♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪

合唱団 アムゼル 団員募集

湘南日独協会混声合唱団は今年5月創立

10周年記念コンサートを開催しました。

ドイツの歌を、日本の歌を歌っています。

毎年のおクトーバーフェスト、藤沢の合唱祭
の他、ドイツとの交流会での演奏をしております。
どうぞ見学においで下さい。

指揮者 梶井智子

練習日 第1、第3、第5水曜日

午後1時30分~3時30分

場所 藤沢カトリック教会

(藤沢駅より徒歩5分)

連絡先 045-895-6845 (水谷)

♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪

日独産業協会はこの度、東京にてセミナーと懇親会を
主催いたします。是非お越しください。

テーマ: 「ユーロ圏のチャンスとチャレンジ」

講師: クラウス・メルク

ドイツ連邦銀行駐日代表事務所長

会場: 日本工業倶楽部 ・2階(セミナー)

・3階(懇親会)

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1の4の6

Tel : 03-3281-1711

日時: 2013年10月1日(火) 16時~19時30分

(受付開始: 15時30分)

詳細・お申し込み方法につきましては、ウェブサイト
をご覧ください。日独経済に関心をお持ちのご友人や
お知り合いにもご紹介いただければ幸甚に存じます

当セミナーをはじめとする様々なDJW イベントや取
組みは、当協会ウェブサイトからご覧頂けます。
(www.djw.de/ja)

講師のメルク独連邦銀行駐日代表事務所長、ヴィース
ホイDJW 理事長をはじめとする理事会の皆様、会員の皆
様、さらに日独間ビジネスに関心をお持ちの全ての方々
が、互いに交流を深め、未来へ繋げていただけるような
セミナー・懇親会となりますことを願い、皆様のご参加
を心よりお待ちしております。

編集後記

創立15周年を迎えて岩崎英二郎先生の記念講演、創
立10周年のアムゼル記念演奏会、そして東部ドイツ加
行と記念行事は成功裏に進んでいます。恒例のオクトー
バーフェスト、そして岩崎先生縁の小岩井農場見学が続
きます。どうぞ皆様お楽しみ下さい。

会報Der Windもそれに併せて特集号としております。
今回は古橋昭子氏の特別寄稿に創立当時の様子が浮かび
ます。またワイマールを訪ねた若い人たちの感激と将来
がお二人の手紙に読みとれると思います。是非皆様から
の積極的ご寄稿をお願い致します。

ホームページの管理をして頂いている寺田雄介氏には
ご多忙な中会報の作成にも大変なご協力を頂いておりま
す。お礼を申し上げます。 大久保

★★湘南日独協会ホームページ★★

http://jdg-schonau.ciao.jp/

「全国日独協会一覧」からもアクセス出来ます